第３２回イオン環境活動助成
活動報告書（上期）

報告対象期間：2023 年 4 月 1 日～2023 年 9 月 30 日

団体名	愛知守山自然の会
活動タイトル	絶滅危惧種マメナシなどの保全・保護・調査
活動地域	愛知県・三重県・岐阜県

４月 16 日　ハルリンドウ群落　小幡緑地本園

【活動の目的・目標】

地域住民の皆さんと共に、多様な動植物を含む湿地の再生・絶滅危惧種マメナシの保全など小幡緑地本園だけでなく、桑名市多度町八壺谷、東谷山、蛭池などにも訪れ、健全で豊かな生態系を守り、地域の生物多様性保全の象徴的な空間として、未来を生きるこどもたちに残していくことを活動の目的としている。

６月 10 日　ノアザミの群落　小幡緑地本園

【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

①木道の渡し板や横木の劣化が目立ってきた。徐々に取り換えているが人手不足で対応しきれなかった。②エリアの分担が難しいため、必要な時期に、特定の場所の保全に数人で集中して取り組んだ。③小幡の森通信に湿地保全だよりを掲載し、作業の様子や湿地での出来事などをお知らせし応援の要請をした。

７月 12 日　サギソウ　せせらぎ湿地

【活動の内容・成果】

開催回数：３０日

参加人数：２８５名

達成率：　９０％

マメナシ保全の総括としては、小幡緑地のマメナシを保全し、自然更新する環境を維持し整備を継続できた。

①湿地保全とマメナシ保全を合同で行った。② 自然更新可能な自生地を優先し、小幡緑地管理事務所と連携して保全を行った。③先順位の高い場所は年２回、その他は年１回の保全を行った。④保全の大切さを観察会時にアピールし勧誘を実施した。⑤他団体（桑名市多度自生地・蛭池）と交流ができ、情報交換ができた。

せせらぎ湿地・ダム下湿地の保全の総括としては、湿地の特徴を活かし、持続可能な湿地の保全をめざせた。Ａエリアを中心に植生調査を行った。シラタマホシクサ、ハルリンドウ、トウカイコモウセンゴケ、コバギボウシ、サギソウ、ノハナショウブ等生育域が広がっている。

【団体概要】

小幡緑地本園では、2004 年から、せせらぎ湿地・ダム下湿地とマメナシの保全に分かれ月２回の保全をしてきた。人数は 10 名程度。せせらぎ湿地・ダム下湿地には踏圧を防ぐために、木道を設置し、木道の上から植物・昆虫の観察をしている。自然観察会は、月に 1 回 25~40 名程度で、園内の四季折々の植物・昆虫の観察をしている。

五感を活用した観察の楽しさを伝え合うようになった。

第３２回イオン環境活動助成
活動報告書（上期）

報告対象期間：2023 年 4 月 1 日～2023 年 9 月 30 日

５月４日(木)　**アズマヒキガエルの幼生**

名古屋市のレッドリストでは、絶滅危惧種

東谷山では、毎年３箇所で産卵を確認している。

体長 120mm にもなる大形のカエル。

皮膚に多数のイボがあり、春には湿地でたくさんのオタマジャクシを観察することができる。

５月 25 日（木）　**ムカシヤンマ　♀**

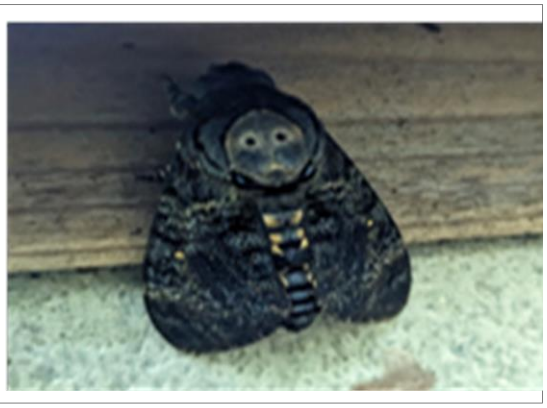
名古屋市のレッドリストでは、絶滅危惧種

東谷山の N 湿地で成虫を確認できた。３年ぶりである。

樹林地に生息する、ギンヤンマ大のトンボ。飛び方は、比較的野暮ったい。幼虫は、山地の斜面の、湿った浅い流れや、水が湧きだしているようなところで育ち、分布は限られる。

６月 25 日(日)　　**マメナシの果実**　大きさは 1cm。小幡緑地本園には、10 数個所に約 40 本の成木を観ることができる。

緑ヶ池南池畔西側には高さ５～７m の成木が７本並び、小幡緑地内で最大の群生地である。毎年４月には実生が 20　本以上出るので生長を期待しているが、中々育たない。他の自生地では、数個所で、実生から幼木に育っている。は、



８月 20 日(日)　　小幡緑地本園

メンガタスズメ　成虫の胸部背面にある模様が「人面」に見立てられる。近縁のクロメンガタスズメとは、腹部背面の黒色部分の幅などで区別できる。本種の方が明らかに細い。

成虫は蜜泥棒としても知られ、ミツバチの巣箱に侵入して蜂蜜を奪う。巣箱内で本種を見かけることも多い。